

男女共同参画に関する市民意識調査

概要版

平成 30 年度

横浜市政策局

1 調査目的

本調査は、市民の男女共同参画及びDVに関する意識、実態等の現状及びその推移を明らかにすることで、横浜市における男女共同参画推進及びDVに関する課題を把握し、今後の横浜市の施策をさらに推進するために実施した。

2 調査概要

- (1) 調査対象 横浜市内在住の満18歳以上の男女（外国籍市民を含む）
- (2) 標本数 8,000 サンプル
- (3) 抽出方法 住民基本台帳による無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送配布・郵送回収法
- (5) 調査期間 平成30年5月7日～5月31日
- (6) 回収結果 有効回答者数2,439人（うち外国籍市民5人）、有効回答率30.4%

3 調査内容

I 男女の役割や地位に関する意識について

性別による役割分担意識（問3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.3

II 誰もが活躍できる職場の推進について

管理職への昇格希望（問4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.4

職場での女性活躍の取組について（問5）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.6

職場で女性活躍の取組が進まない理由（問5-1）・・・・・・・・・・・・・・・・P.7

職場で女性を採用・登用するメリットの有無（問6）・・・・・・・・・・・・・・・・P.8

職場で女性を採用・登用するメリットがある理由（問6-1）・・・・・・・・P.9

職場で女性を採用・登用するメリットがない理由（問6-2）・・・・・・・・P.10

III 仕事と家庭生活等の両立について

生活の中で各活動に費やしている時間（問7）・・・・・・・・・・・・・・・・P.11

男性が育児や介護のために休業や休暇を取得することに対する意識（問10）・・・・P.12

男性は育児や介護のための休業や休暇を取得しない方がよいと考える理由（問10-1）・・・・P.13

IV 男女が互いの性を理解し尊重しあえる社会づくりについて

セクシュアル・ハラスメントと思う行為を受けた経験（問17）・・・・・・・・P.14

受けたことがあるセクシュアル・ハラスメントと思う行為（問17-1）・・・・P.14

V DV（配偶者等からの暴力）について

配偶者やパートナーから暴力にあたる行為を受けた経験（問20②）・・・・P.15

VI 男女共同参画について

概要版には記載なし

4 回答者の属性

(1) 性別

男性 49.3% 女性 50.7%

※ウェイトバック集計による補正をかけているため、(2)の回答者の割合とは一致しません。

(2) 年代

回答者の年齢構成は図表0のとおりである。なお、調査結果を見る際、回答者の年齢構成と実際の横浜市全体の年齢構成に差異があることに留意する必要がある。

図表0 回答者及び横浜市全体の年齢構成

	回答者数	割合 (%)	横浜市全体		
			人口 (人)	構成比 (%)	
合計	2,439	100.0%	3,151,992	100.0%	
18・19歳	40	1.6%	71,504	2.3%	
20歳代	230	9.4%	399,287	12.7%	
30歳代	309	12.7%	461,377	14.6%	
40歳代	429	17.6%	619,521	19.7%	
50歳代	436	17.9%	499,648	15.9%	
60歳代	429	17.6%	445,590	14.1%	
70歳以上	547	22.4%	655,065	20.8%	
男性	合計	1055	43.3%	1,554,876	49.3%
	18歳・19歳	12	0.5%	36,625	1.2%
	20歳代	97	4.0%	206,260	6.5%
	30歳代	122	5.0%	236,101	7.5%
	40歳代	171	7.0%	315,299	10.0%
	50歳代	185	7.6%	258,653	8.2%
	60歳代	187	7.7%	221,191	7.0%
	70歳以上	281	11.5%	280,747	8.9%
女性	合計	1322	54.2%	1,597,116	50.7%
	18歳・19歳	28	1.1%	34,879	1.1%
	20歳代	133	5.5%	193,027	6.1%
	30歳代	185	7.6%	225,276	7.1%
	40歳代	253	10.4%	304,222	9.7%
	50歳代	247	10.1%	240,995	7.6%
	60歳代	237	9.7%	224,399	7.1%
	70歳以上	238	9.8%	374,318	11.9%

平成30年1月1日現在の年齢別人口

※合計の人口数は17歳以下と年齢不詳を除く数値となっています。

※上記の合計人口数からの構成比となっています。

※ウェイトバック集計の際は、横浜市全体の人口構成に比率を合わせるため性別と年齢の無回答者は対象外となります。

(注) 今回の調査から、集計結果を横浜市の年齢構成比に合わせウェイトバック集計をかけています。平成26年度以前の調査結果は参考値となります。

(注) ウェイトバック集計による補正を行なっているため、補正後のサンプル数は四捨五入して整数表記をしています。そのため、合計と誤差が生じておりますが、ご了承ください。

5 調査結果概要

(1) 性別による役割分担意識 (問3)

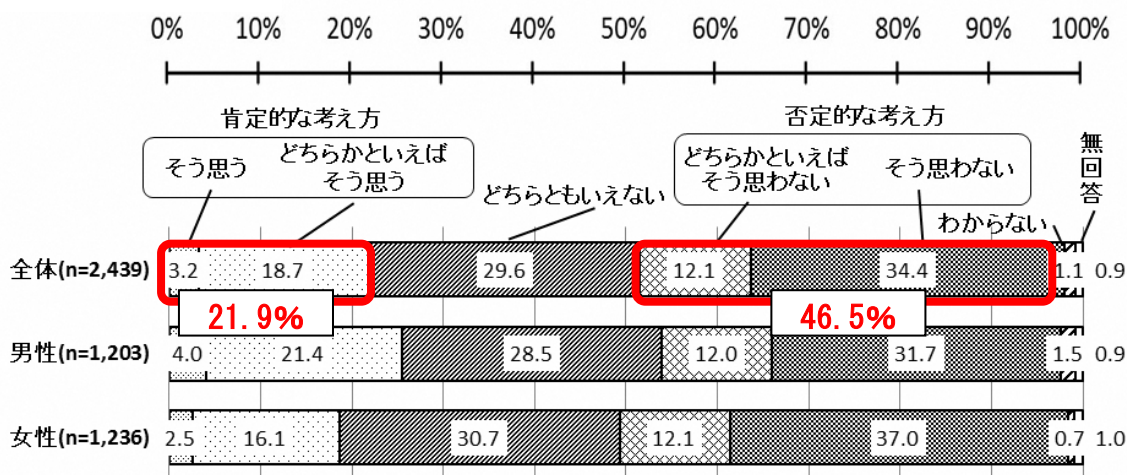
男女の性別役割分担について、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思うかをたずねた。

全体では、否定的な考え方(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計:46.5%)が肯定的な考え方(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計:21.9%)を大きく上回っている。

過去の市民意識調査では「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」という聞き方であったため、単純な比較はできないが、参考として、前回調査と比較すると、肯定的な考え方の割合が低くなり、否定的な考え方の割合が高くなっており、特に男性に意識の変化がみられる。

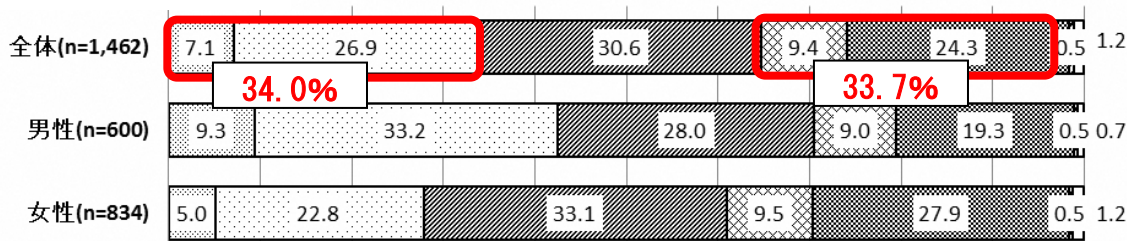
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」－ 経年比較

【今回調査】平成30年度調査



【参考】平成26年度調査

※「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」

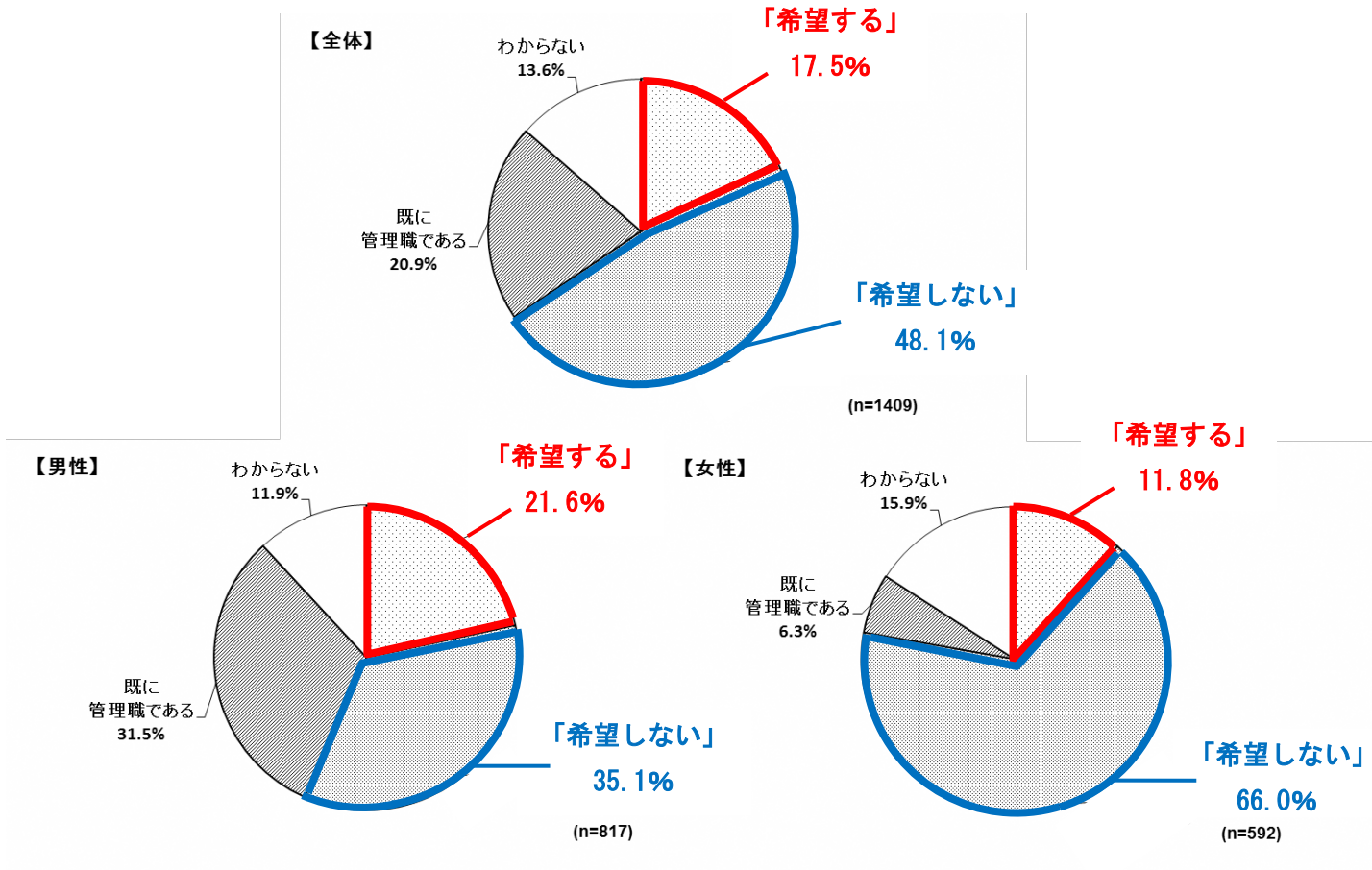


(注) 今回の調査から、集計結果を横浜市の年齢構成比に合わせウェイトバック集計をかけています。平成26年度以前の調査結果は参考値となります。

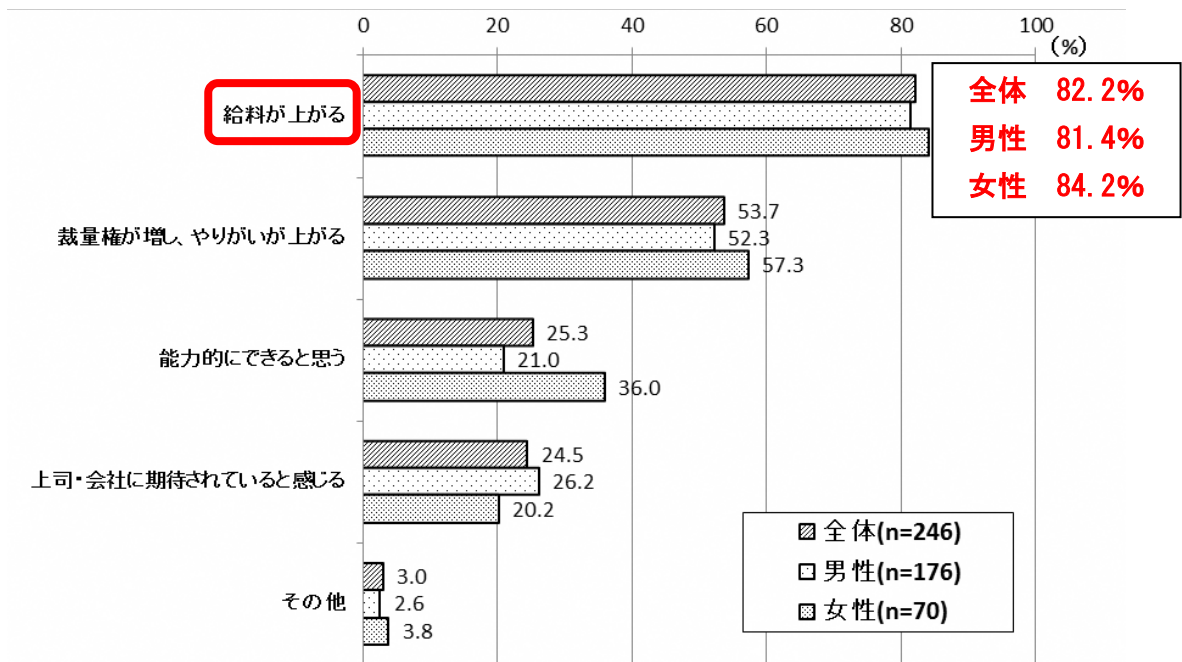
(2) 管理職への昇格希望(問4)

2人以上が勤務する職場で働く方に管理職(課長相当職以上)への昇格希望があるかをたずねた。「希望する」割合は、全体で17.5%、性別にみると男性(21.6%)が女性(11.8%)より高い。

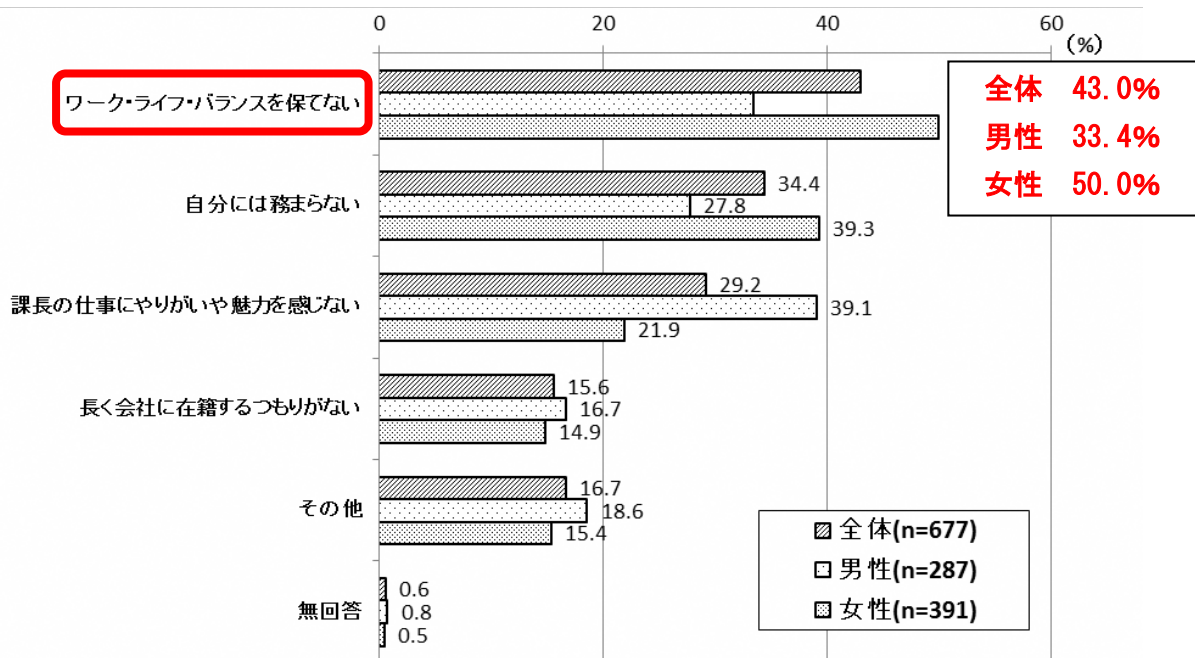
図表2 管理職への昇格希望 — 性別



図表 2-1 管理職への昇格を希望する理由



図表 2-2 管理職への昇格を希望しない理由



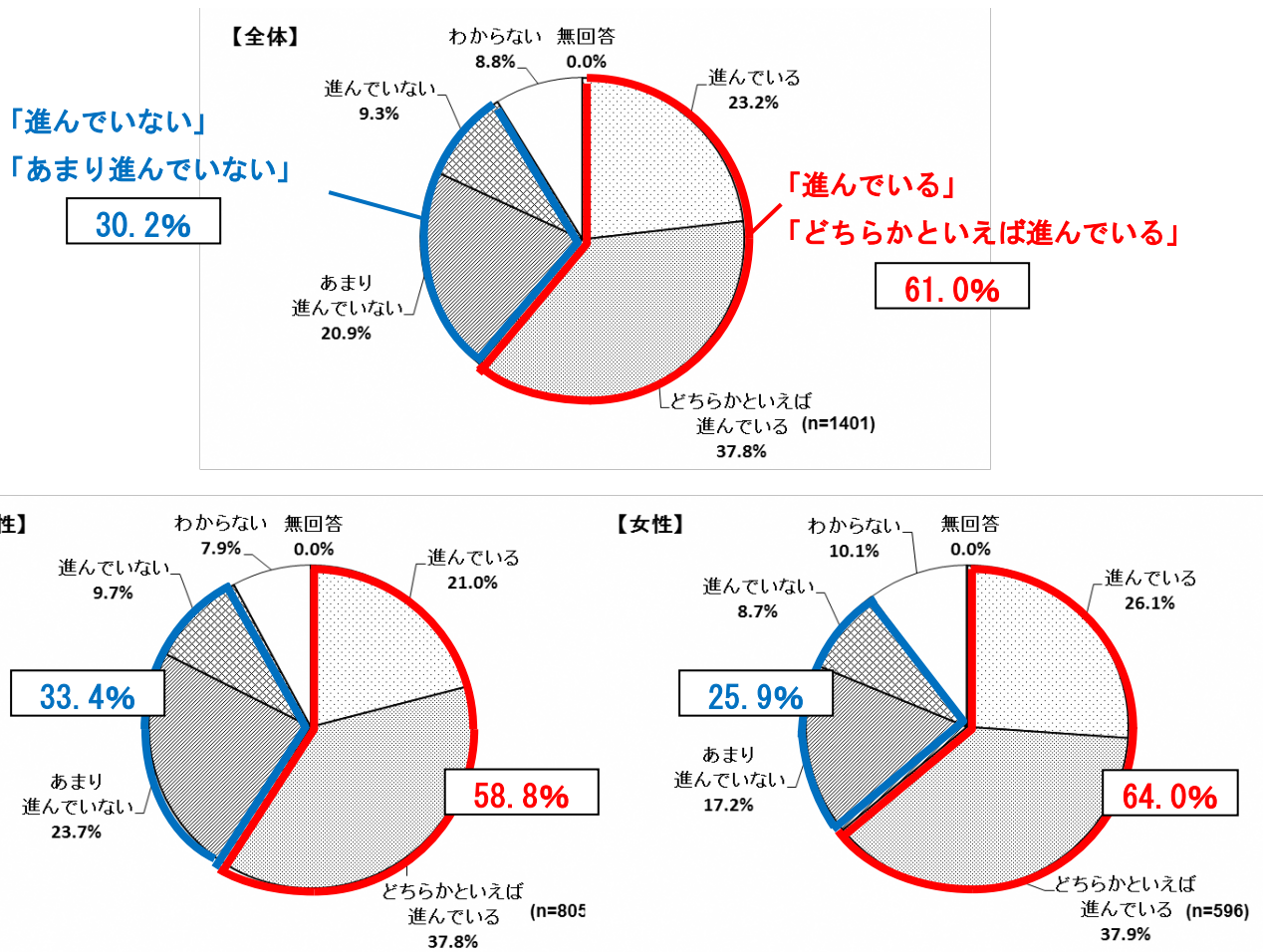
(3) 職場での女性活躍の取組について(問5)

2人以上が勤務する職場で働く方に、職場での女性活躍の取組についてたずねた。

全体では、“進んでいる・どちらかといえば進んでいるの合計”が61.0%、“進んでいない・あまり進んでいないの合計”が30.2%となっている。

性別でも、男性、女性ともに“進んでいる・どちらかといえば進んでいるの合計”が“進んでいない・あまり進んでいないの合計”を上回っている。

図表3 職場での女性活躍の取組について - 性別



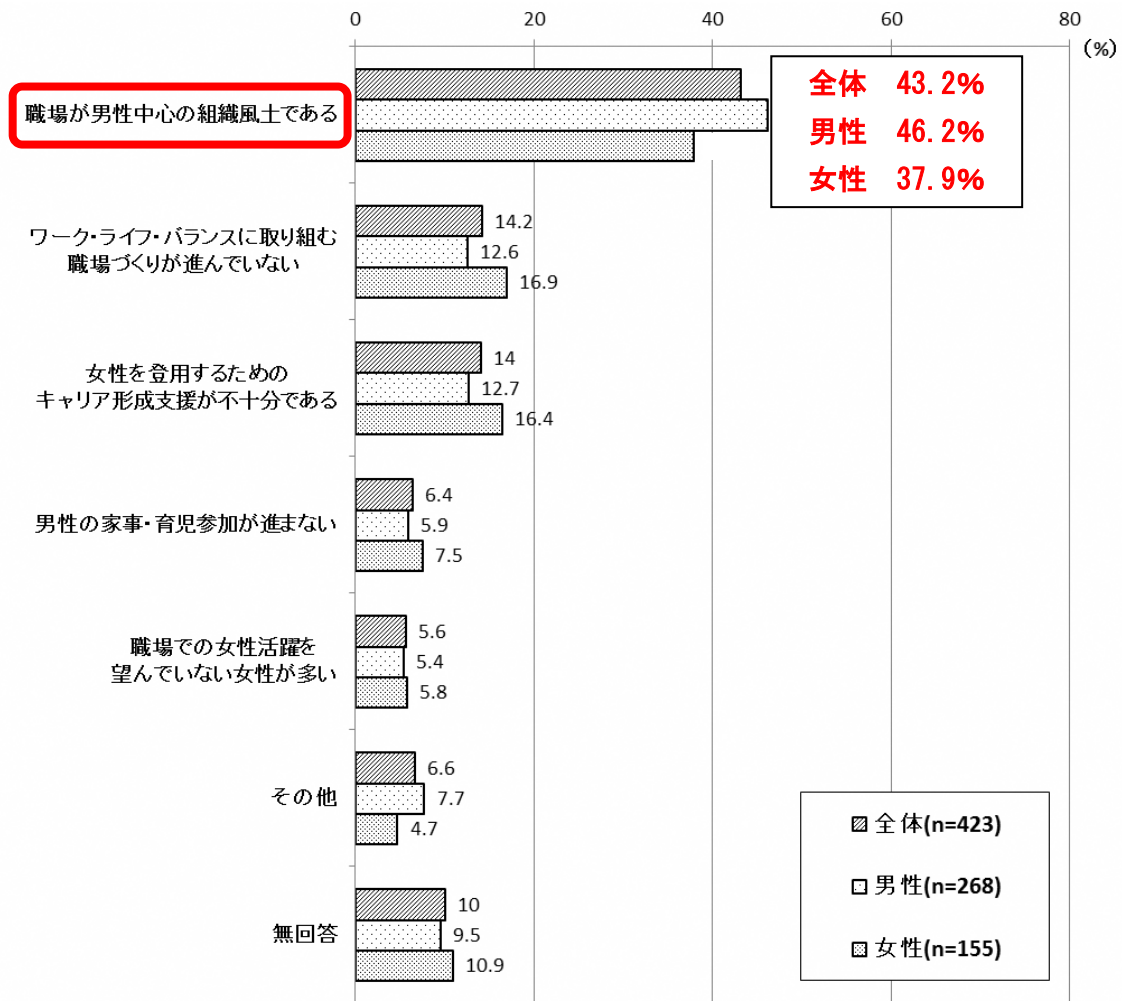
(4) 職場で女性活躍の取組が進まない理由 (問5-1)

職場での女性活躍の取組について「あまり進んでいない」「進んでいない」と回答した人(423人)に、その理由として最も大きいと思うことをたずねた。

全体、男性、女性いずれも、「職場が男性中心の組織風土である」の割合が圧倒的に高い。(全体 43.2%、男性 46.2%、女性 37.9%)。

性別にみると、男性では「職場が男性中心の組織風土である」が女性より割合が高いが、それ以外の項目は女性の方が割合が高い。

図表4 職場で女性活躍の取り組みが進まない理由

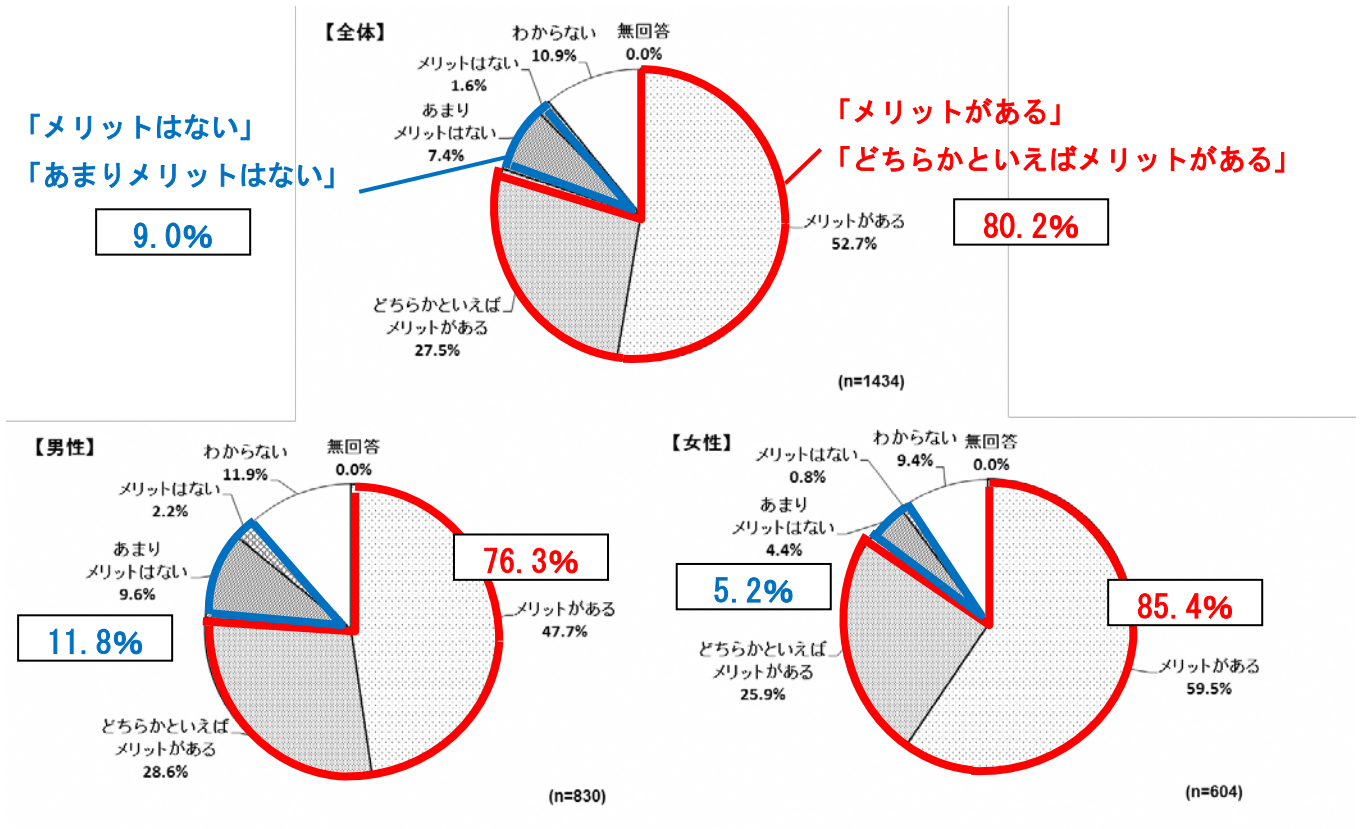


(5) 職場で女性を採用・登用するメリットの有無(問6)

2人以上が勤務する職場で働く方に、職場で女性を採用・登用するメリットの有無をたずねた。全体では、“メリットがある・計”(80.2%)が8割以上となっている。

性別で見ると、“メリットがある・計”は女性(85.4%)が男性(76.3%)を上回っている。

図表5 職場で女性を採用・登用するメリットの有無 — 性別



(6) 職場で女性を採用・登用するメリットがある理由 (問6-1)

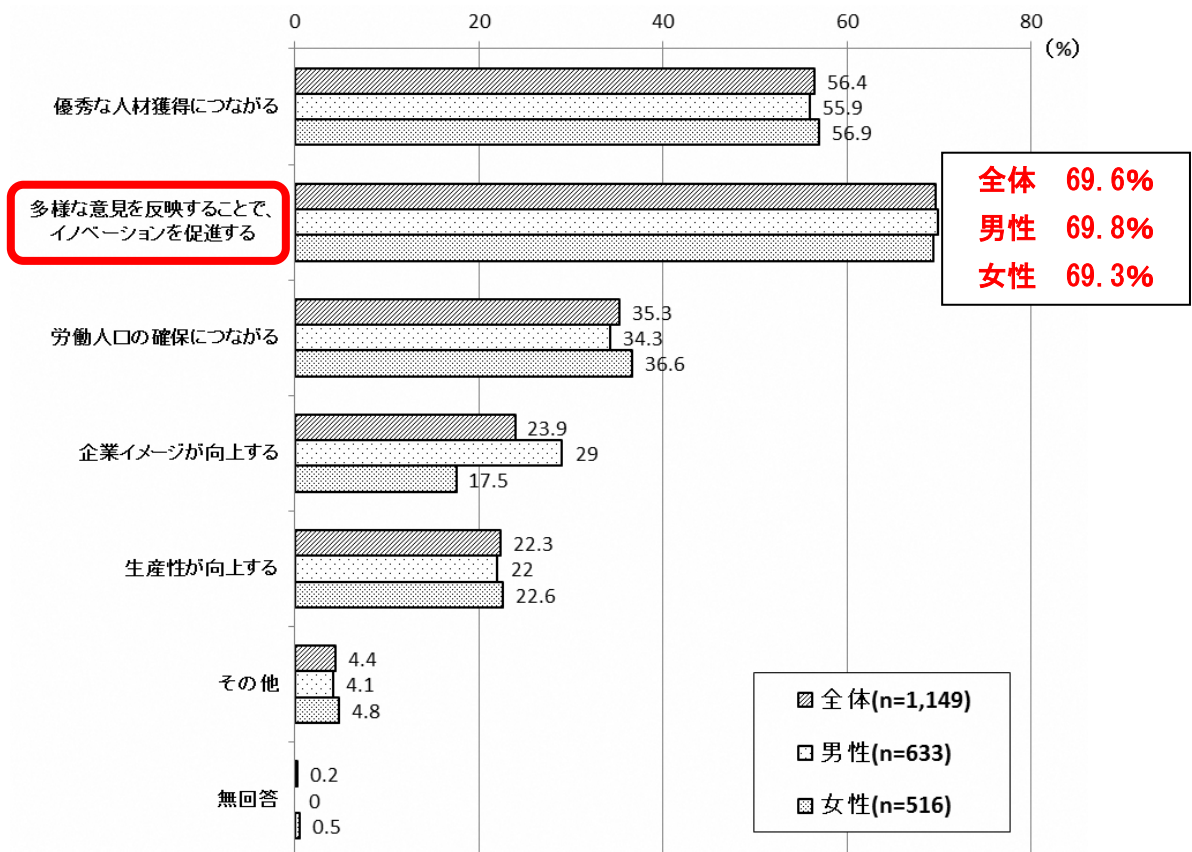
職場で女性を採用・登用するメリットがあると回答した人 (1,149人) に、どのようなメリットがあるかをたずねた。

全体、男性、女性いずれも、「多様な意見を反映することで、イノベーションを促進する」の割合が最も高い。(全体 69.6%、男性 69.8%、女性 69.3%)

次いで「優秀な人材獲得につながる」(全体 56.4%、男性 55.9%、女性 56.9%)、

「労働人口の確保につながる」(全体 35.3%、男性 34.3%、女性 36.6%)の順となっている。

図表6 職場で女性を採用・登用するメリットがある理由 (複数回答)



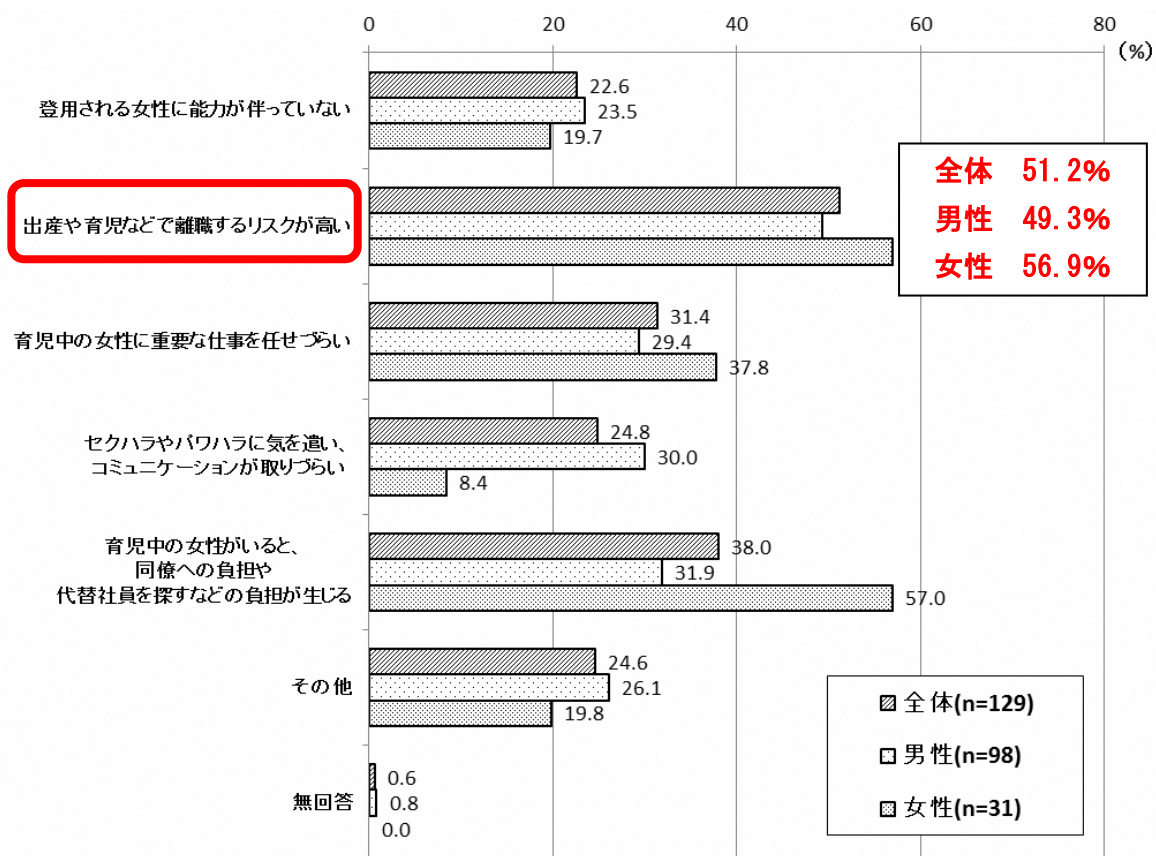
(7) 職場で女性を採用・登用するメリットがない理由（問6-2）

職場で女性を採用・登用するメリットはないと回答した人（129人）に、なぜメリットがないと思うかをたずねた。

全体では、「出産や育児などで離職するリスクが高い」（51.2%）の割合が高い。

性別にみると、男性では「出産や育児などで離職するリスクが高い」（49.3%）が最も高く、次いで「育児中の女性がいると、同僚への負担や代替社員を探すなどの負担が生じる」（31.9%）、「セクハラやパワハラに気を遣い、コミュニケーションが取りづらい」（30.0%）の順になっている。女性は「育児中の女性がいると、同僚への負担や代替社員を探すなどの負担が生じる」（57.0%）が最も高く、次いで「出産や育児などで離職するリスクが高い」（56.9%）、「育児中の女性に重要な仕事を任せづらい」（37.8%）の順になっている。

図表7 職場で女性を採用・登用するメリットがない理由（複数回答）



(8) 生活の中で各活動に費やしている時間 [世帯類型別] (問7)

共働きの世帯と共働きではない世帯別に、各活動に費やしている時間についてたずねた。

仕事や学校のある日について、共働き世帯の「家事育児(家事・育児・介護)」に費やす時間を見ると、男性(1時間4分)と女性(5時間9分)は約1対5となっており、女性に偏っていることがわかる。

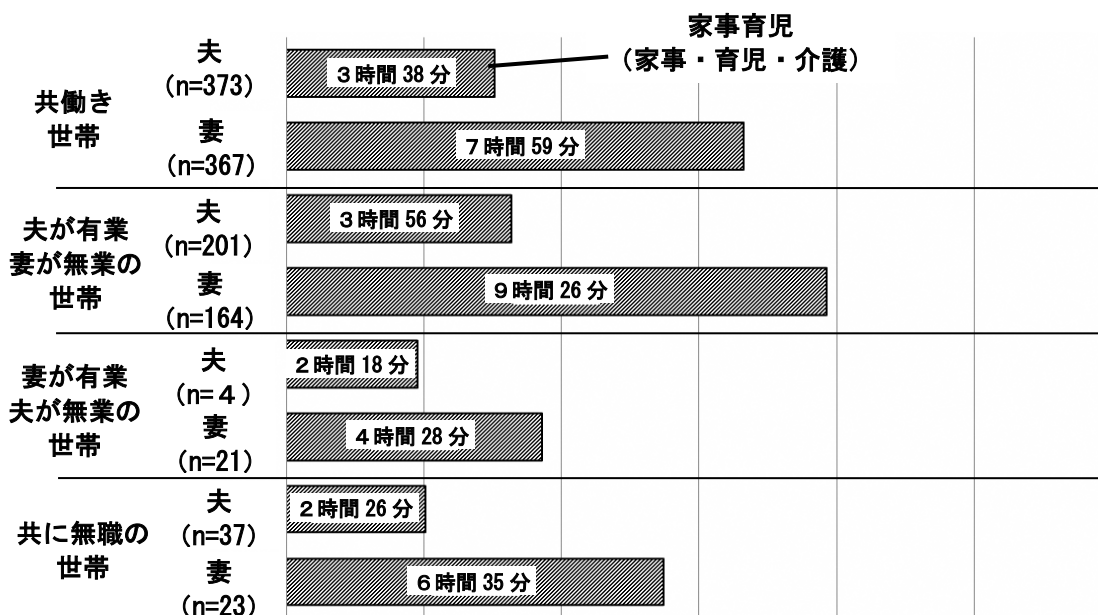
図表8-1 生活の中で各活動に費やしている時間

【仕事や学校のある日】 - 世帯類型別



図表8-2 生活の中で各活動に費やしている時間

【休みの日・仕事や学校のない日】 - 世帯類型別



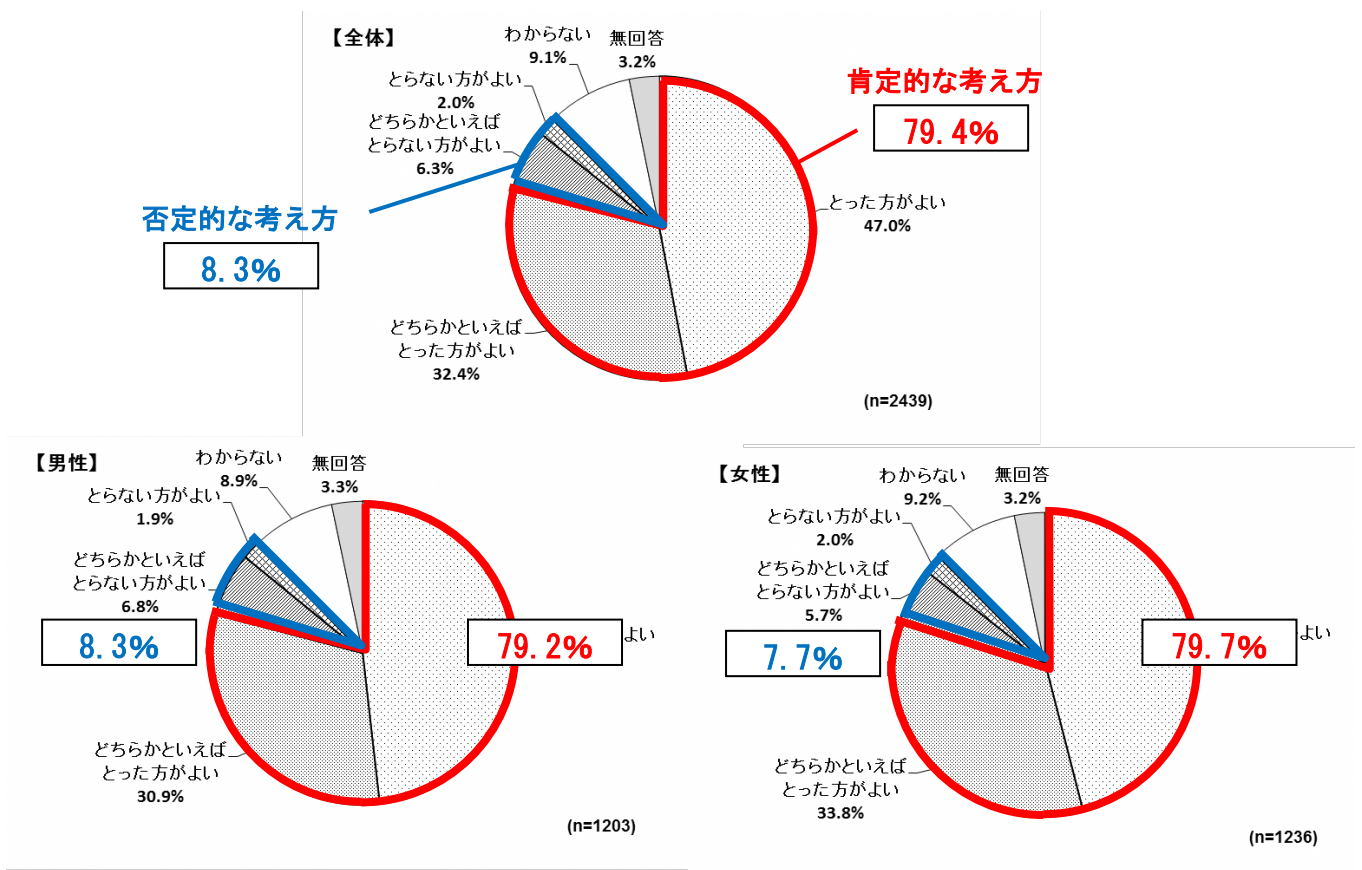
(9) 男性が育児や介護のために休業や休暇を取得することに対する意識 (問 10)

男性が育児休業や介護休業・休暇を取得することについてどう思うかをたずねた。

全体、男性、女性いずれも、肯定的な考え方(「とった方がよい」と「どちらかといえばとった方がよい」の合計)が否定的な考え方(「とらない方がよい」と「どちらかといえばとらない方がよい」の合計)を大きく上回り、取得することに対する肯定的な意見が多い。

肯定的な考え方の割合は約8割となっている。

図表9 男性が育児や介護のために休業や休暇を取得することに対する意識



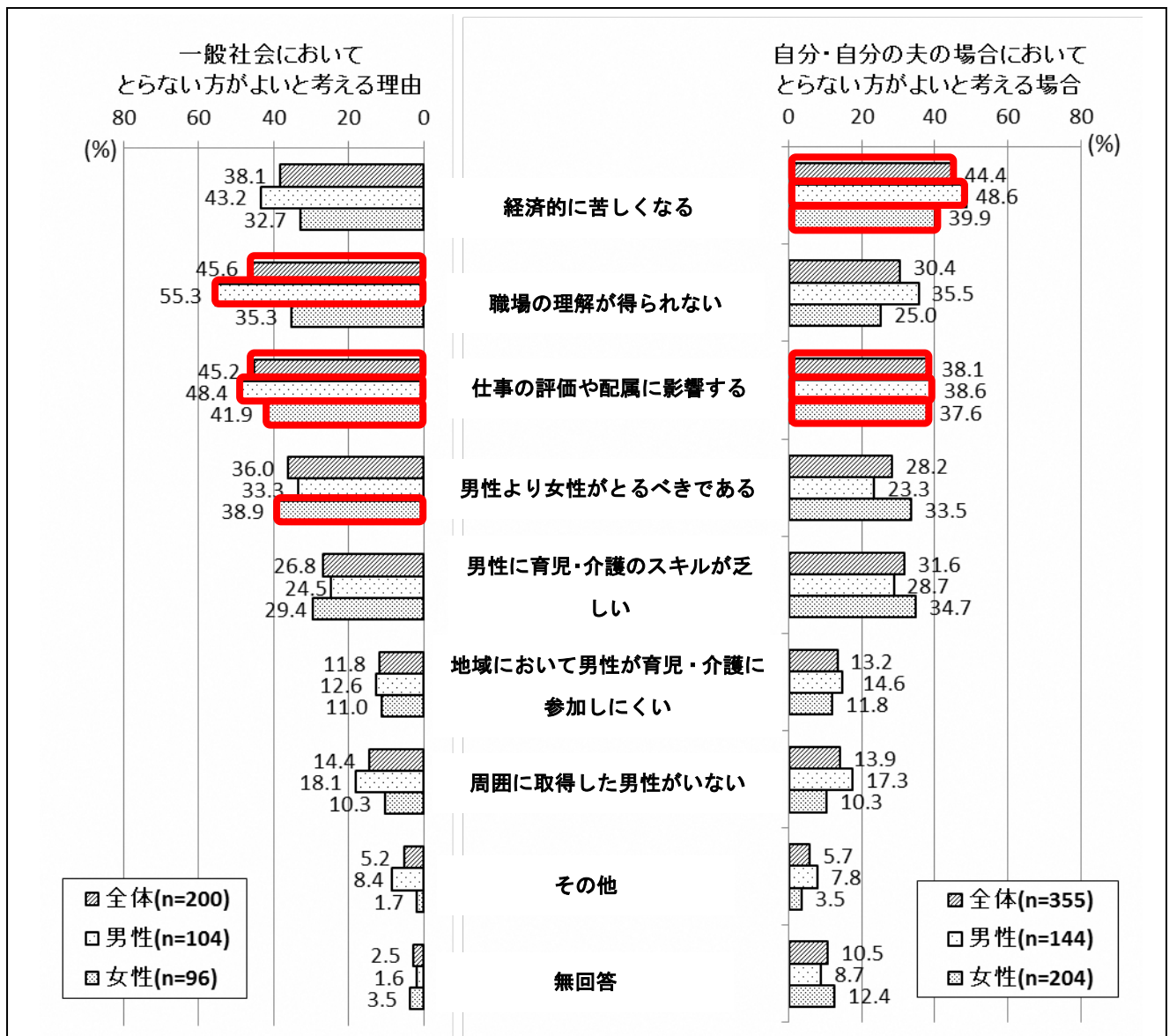
(10) 男性は育児や介護のための休業や休暇を取得しない方がよいと考える理由（問 10-1）

男性が育児や介護のための休業や休暇を取得することについて、「とらない方がよい」あるいは「どちらかといえばとらない方がよい」と回答した人（200人）に「一般社会における場合」と「自分・自分の夫の場合」について、そう考える理由をたずねた。

一般的社会における理由では、全体、男性ともに、「職場の理解が得られない」及び「仕事の評価や配属に影響する」といった仕事に関わるものが4割以上と多くなっている。女性では「仕事の評価や配属に影響する」と「男性より女性がとるべきである」が4割前後となっている。

自分・自分の夫の場合での理由は、全体、男性、女性ともに「経済的に苦しくなる」が最も多く、次いで「仕事の評価や配属に影響する」となっている。一般社会における場合と比較すると、「経済的に苦しくなる」「地域において男性が育児・介護に参加しにくい」「男性に育児・介護のスキルが乏しい」の項目で回答が上回っている。

図表 10 男性は育児や介護のための休業や休暇を
取得しない方がよいと考える理由（複数回答）

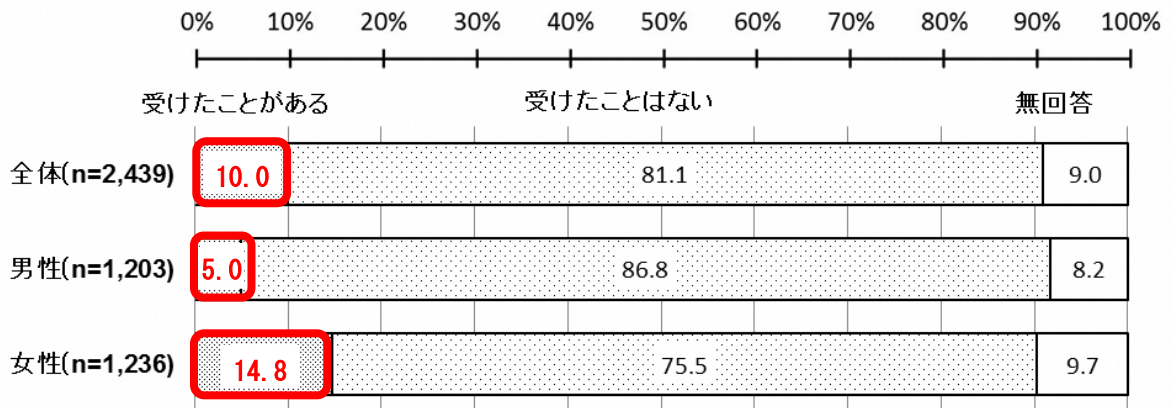


(11) セクシュアル・ハラスメントと思う行為を受けた経験（問17）

この3年間に、職場や学校、地域活動の場のいずれかの場所で、セクシュアル・ハラスメントと思う行為を受けた経験があるかをたずねた。

「受けたことがある」割合は、全体で10.0%、性別にみると、女性では14.8%で、男性（5.0%）よりも高くなっている。

図表 1 1 セクシュアル・ハラスメントと思う行為を受けた経験



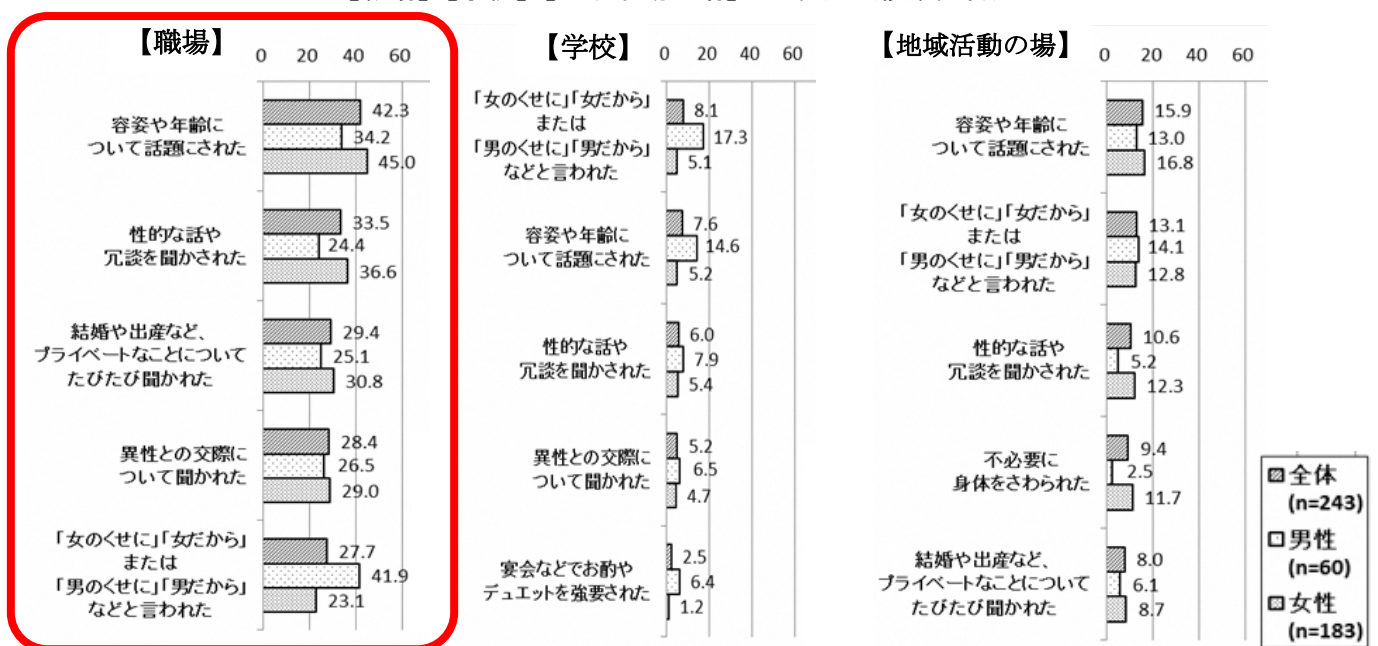
(12) 受けたことがあるセクシュアル・ハラスメントと思う行為【職場】【学校】【地域活動の場】(問17-1)

この3年の間に、セクシュアル・ハラスメントと思う行為を「受けたことがある」と回答した人(243人)に、どのような行為を受けたのかをたずねた。

「職場」で受けたことがあるセクシュアル・ハラスメントとしては、全体では「容姿や年齢について話題にされた」(42.3%)が最も多く、次いで「性的な話や冗談を聞かされた」(33.5%)、「結婚や出産など、プライベートなことについてたびたび聞かれた」(29.4%)と続く。

性別にみると、女性については、「容姿や年齢について話題にされた」(45.0%)が最も高く、男性では「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」などと言われた」(41.9%)、が最も高い。

図表 1 2 受けたことがあるセクシュアル・ハラスメントと思う行為【職場】【学校】【地域活動の場】－性別（複数回答）



(13) 配偶者やパートナーから暴力にあたる行為を受けた経験（問 20 ②）

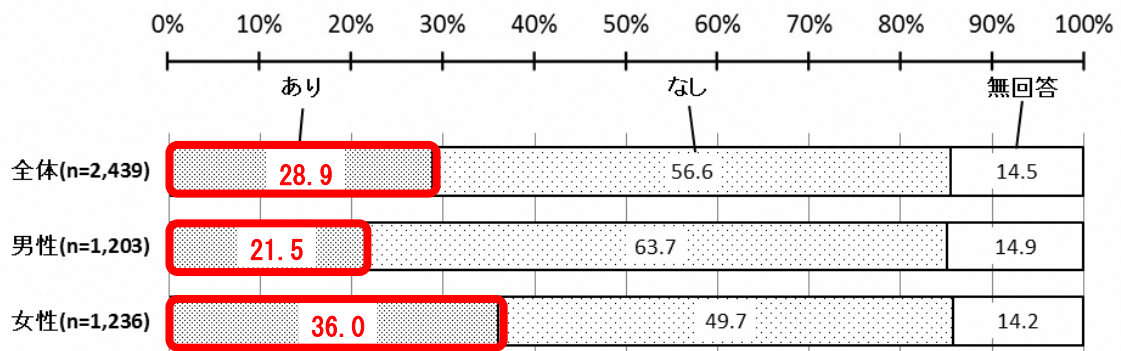
何らかの暴力を受けたことがある（全体、男女別）

身体的暴力、精神的暴力、性的暴力に関わらず、何らかの暴力を受けたことがある割合

配偶者やパートナーから暴力にあたる行為を受けたと答えた人（「1，2度あった」と「何度もあった」の合計）は、全体で28.9%であった。

性別にみると、男性21.5%に対し、女性は36.0%で、女性の方が暴力にあたる行為を受けた経験の割合が高くなっている。

図表 1 3 配偶者やパートナーから暴力にあたる行為を受けた経験



身体的暴力、精神的暴力、性的暴力の類型別経験

配偶者やパートナーから暴力にあたる行為を受けたと答えた人（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）は、身体的暴力では9.6%、性的暴力では7.2%、精神的暴力では27.5%あった。精神的暴力にあたる行為を受けた人は3割近くあり、多い。

性別にみると、いずれの暴力についても、女性の方が男性よりも暴力にあたる行為を受けた率が高くなっている。特に、精神的暴力では男女差が大きい。

図表 1 3 - 1 配偶者やパートナーから暴力にあたる行為を受けた経験 - 性・類型別

